

## **European Association of Cardiovascular Imaging (EACVI) Heart Imagers of Tomorrow (HIT) ambassador for Japan としての、EuroEcho Imaging 2017 の参加報告書**

ポルトガル国リスボン市で開催されました EuroEcho Imaging 2017 に EACVI HIT ambassador for Japan として 3 回目の参加をしてきました。昨年までの 2 年間の報告書で、HIT の概要や目標は報告させていただきましたので、本年はどのように HIT が学会運営に関与していたかを中心に、ここに報告させていただきます。

HIT はイタリアの Dr. Cameli 体制の下での 2 年目に入り、より組織が安定し、学会の中でも存在意義が格段に上がっている印象でした。具体的なデータを示しますと EuroEcho Imaging 2017 の全セッションの内、HIT が主体となって運営しているセッションは、Oral と Poster 合わせて 23 セッションがあり、全体の 14.1% にものぼっております。したがって、若手が主体性を存分に発揮できているため、私が知る限りの他のどの学会よりも、活気あふれる雰囲気を作り出していました。下記にそれぞれのセッションについてその特徴を解説させていただきます。

### **1. HIT the Case!**

このセッションはとりわけ若い医師が、画像診断が Key となる症例を Oral で報告する Clinical Case セッションであり、さながら日循の地方会のような形式でありました。座長は HIT ambassador と senior faculty 一名ずつ体制で、アカデミックレベルを保つように工夫されました。特徴的なのは、YIA competition でも使用されていたこの会場（右写真）は、企業展示とポスターセッションのある大会場の中の特設ブースに設置されており、他の会場よりカジュアルな環境になっています。したがって、若手や聴衆の緊張感を解す工夫となっており、積極的な質疑応答が展開されていました。また、本セッションでは本邦からワシントン大学に留学中の鍵山暢之先生が discusser として招待されていました。



## 2. HIT poster session

このセッションは、HITが Club 35 のときから行われているセッションです。Moderated poster には座長がつき、ポスターの前で 5 分程度の発表をしていく形式でありました。一般の HIT poster には HIT poster hosts が discusser として 5-6 人指定されており、質疑応答時間に質問を積極的にかわすような仕組みになっています（筆者も host として招待されました）。したがって、国際学会にありがちな「ポスターを張ったものの誰も来てくれない」というお寒い状況を防いでおり、筆者の個人的感想として、他の学会よりも活気あるポスターセッションでありました。写真はセッションの合間に、各国の HIT ambassadors とのスナップショット。左からイタリアの Dr. Mandoli、ポルトガルの Dr. Sousa、筆者、トルコの Dr. Tok。



## 3. HIT Symposium

HIT Symposium はどれも教育講演の形式をとっています。本年は HIT のコアメンバーが 3 日間にわたり、Critical Care Echocardiography、Valvular Heart Disease、Multimodality Predictors の 3 セッションで Hot topics について講演を行いました。どのセッションも満員御礼であり、会場の外まで聴衆があふれていました（右写真）。内容は症例や imaging を提示した日常診療に即した基礎的なものから、最新エビデンスの review まで豊富な内容であります。演者が比較的若いこともあり独自の figure なども登場して、新鮮さが溢れるセッションでした。右の写真は Hot topics in Valvular Heart Disease にて、発表するスロベニアの HIT ambassador の Dr. Podlesnikar の発表スライド。HIT のロゴとメンバーの写真を強調しつつ、HIT の戦略の一つである IT 教育のための Facebook と LinkedIn への参加を促していました。下記の写真は、Critical Care

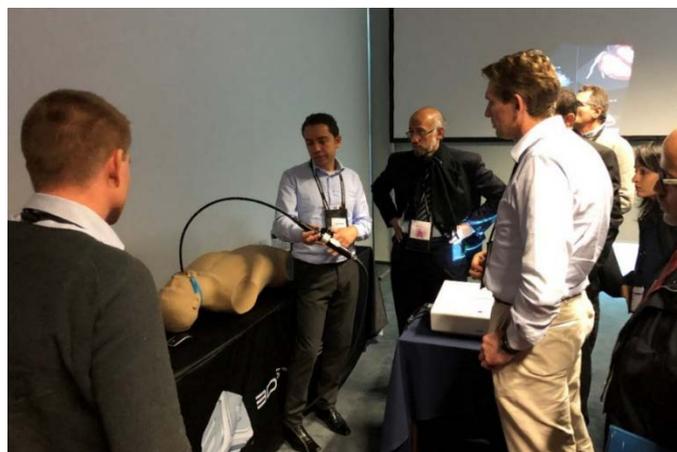


Echocardiography セッション後に、成功を祝しつつ、各国の HIT ambassadors と EACVI president の Prof. Popescu（前列中央）を囲んでの記念撮影です。



#### 4. HIT Workshop

今年の本セッションでは経食道心エコーハンズオンセミナーを行っていました。日常診療のトピックである、Critical Patient、Prosthetic Valve、MitraClip、ASD Closure に焦点を絞った、それぞれ 90 分のハンズオンを 2 日間行いました。写真は ASD Closure セッションでの一枚で、ブラジルの HIT ambassador Dr. Miglioranza によるシュミレーターを用いた実演風景です。欧州でも SHD 分野はトピックであり、とりわけ MitraClip、ASD Closure のセッションは、開始前に席が埋まるほどの人気ぶりでありました。本邦もいよいよ MitraClip が開始になり、若手心エコー医が第一線で活躍する分野であるため、若手でもこのようなハンズオンセミナーを、学会レベルで企画できれば、大いなる効果がある可能性を今回参加して感じ取りました。



#### 5. How-to Session

若手向けの HIT のセッションで、もう一つ目玉なのが How-to Session です。今年はこのセッションは、How to prepare EACVI echo certification exam、How to analyze a

CMR exam、How to write a good abstract、How to stay updated on cardiovascular imaging、How to design and write a good scientific research study の 5 セッションが行われていました。How to design and write a good scientific research study には、筆者の留学時代のメンターの一人でもあるペンシルバニア大学の Scherrer-Crosbie 先生が分子生物心エコーの第一人者として招待されて、研究の立ち上げ方、助成金申請のコツ、論文作成手法などを一流の研究者の視点で語っておられました。近年、日本循環器学会や心臓病学会でもこのような論文の書き方のセッションが見受けられますが、より専門が細分化された今日、専門分野に絞った本セッションは非常に有用であると思えました。本邦でも若手の論文数が激減している嘆かわしい現状があり、この企画は日本心エコー図学会学術集会でも行うべき、アイデアと思っております。

また、Echo certification exam、CMR exam の試験対策講義のようなセッションもありました。Exam 自体は HIT ではなく、EACVI の管轄ですが、受験者は HIT の年代の若手であるため、どのような試験方式、認定サマリー形式、料金、試験日時および場所が望ましいかは、HIT ambassadors 会議で数年前から議論されてきました。その意見が反映された結果、年 2 回、ESC congress と EuroEcho Imaging の日程で、受験料は会員ならば 350EUR となっております（試験の詳細は下記 Web page をご参照ください）。



TOE: <https://www.escardio.org/Education/Career-Development/Certification/Adult-Transesophageal-Echo>

TTE: <https://www.escardio.org/Education/Career-Development/Certification/Adult-Transthoracic-Echo>

右上の写真は(ESC website から拝借)、試験会場の実際の私見の様子。受験者はタブレットで心エコー動画を見て解答しています。

## おわりに

本邦でも 2017 年から若手心エコー医のセッションが心エコー図学会年次集会で開始になり、盛り上がりの機運が上がっています。2018 年は MiraClip の開始に伴う SHD 治療のさらなる進歩の年であり、ますます若手心エコー医の活躍の場が広がる可能性も予見しています。しかし、SHD 分野は、残念ながら本邦は後進を進んでおり、国内のネットワークでは最先端の情報が得難い現状があります。この HIT の国境を越えた横の同世代のネット

ワークは、医療現場に直ちに還元できる無限の情報が得られます。かつ IT 時代の今、日本にいながらクリニカルクエストが生じたら世界中の最先端を走っている仲間や faculty に相談できるという、革命的なネットワークであると考えております。したがって、この世界最大かつ最先端の若手イメージング医の集団である HIT の取り組みは、本邦の次世代を担う若手医師の教育にも大変参考になるものだと、今回参加して改めて感じました。

下記の写真は、Faculty Dinner での HIT メンバーと EACVI president の Prof. Popescu (後列中央) の集合写真です。日中は様々な企画のためゆっくりと交流できなかった分、活発に意見交換も face to face で行うことができました。



最後に、筆者の予定が HIT のイベントが重なり参加できないセッションもあり、ワシントン大学に留学中の鍵山暢之先生に多大なる助けをいただきましたことを、この場で御礼申し上げます。

乱文、失礼致しました。

帝京大学医学部 内科学講座 循環器内科  
EACVI Heart Imagers of Tomorrow ambassador for Japan  
片岡 明久